

教 育 長 様

研究コース	グループ研究Bコース
校園コード(代表者校園の市費コード)	511000

代表者 校園名： 大阪市立滝川小学校
 校園長名： 民辻 善昭 校印
 電話： 6351-1582 FAX: 6351-5502
 申請者 校園名： 阿部野小学校
 職名・名前： 木村 拓也
 電話： 6622-0526 FAX: 6622-9041
 代表者校園 事務職員名： 立木 みどり

平成30年度 「がんばる先生支援」グループ研究 申請書

◇ 本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究Bコース	研究年数	継続研究(2年目)
2	研究テーマ	自然に働きかけ、見出した問い合わせ他者と関わり合いながら、科学的に解決していく子どもの育成 ◆ 研究内容のキーワード: 研究の内容をキーワードで記載してください。([例]学力向上、体力向上等) 理科における資質・能力の育成、主体的・協働的な問題解決活動、理科の見方・考え方、対話的な学び、学力向上、授業デザイン、研修会、教員の資質向上			
3	研究目的	テーマに合致した目的を端的に記載してください。 ○理科における資質・能力を育成するための学習指導法の研究に取り組む。市理科部が従来より取り組んできた、子どもが主体的・協働的に問題を解決していく学習を基盤に、「理科の見方・考え方」と「対話」を軸とした授業デザインに取組み、実践を行うことで、更なる理科の学力向上を図る。 ○各種研修会、公開授業、研究報告、討議会を行い、大阪市小学校教員の資質向上と理科指導力向上を図る。			
4	研究内容	継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。 昨年度は、「子どもが主体的・協働的に問題解決する」を研究の重点にし、問題解決の過程において方策①～④を設定し、授業改善に取り組んだ。方策①は直接体験を通しての問題発見場面の工夫、方策②は予想場面での「結果の予想」を考える場面の工夫、方策③はペア・グループなどの学習形態を考え、他者との対話を促す工夫、方策④は自分の考えを振り返り、修正し、妥当な結論へと考えを集約していく場面の工夫を中心として取り組んだ。 成果としてはこのような取り組みによって子どもがいきいきと自然の事物・現象に関わり、自分の考えを持つことができた。 課題としては、考えを伝えあい、深め合えるような対話についてはまだ十分とはいえないことが挙げられる。グループやペアでの対話といった学習形態の工夫だけでなく、他者との話し合い方の工夫や話し合う視点などの具体的な取り組みを今後は工夫していく必要がある。また、授業についての評価や児童の変容に対する評価が不十分であったことも課題である。指導の手立ての有効性の検証のためにも、事前・事後の児童の認識や理解の変化、学習中の指導の意識の変化を計る評価方法について研究と実践に取り組む必要がある。 今年度は、昨年度の成果と課題を踏まえつつ、理科の「見方・考え方」を授業デザインの中心におき、主体的・対話的・深い学びを具体化した方策①～④のさらなる工夫と評価方法の研究に取り組む。また、教員のための各種研修会を実施し、教員の資質向上を図る。			
		日程など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。 5月 研究組織編成、各部研究計画立案、研究の具体的方策策定 研究全体会、評価計画策定、公開授業単元決定、公開授業①指導案作成 6月 実験実技研修会 公開授業①指導案検討会、プレ授業実施、公開授業・討議会①実施 7月 理科評価問題作成・各校に配付、施設見学会実施 8月 公開授業②指導案・総合研究発表会指導案作成、教材研究研修会 公開授業②指導案・総合研究発表会指導案検討会			

5 活動計画	<p>9月 研究発表会会場校との打ち合わせ会 児童自由研究優秀作品検討会 研究全体会</p> <p>10月 プレ授業実施、公開授業・討議会②実施、子ども化学実験ショー出展</p> <p>11月 実験実技研修会 総合研究発表会指導案検討会、理科評価問題作成・各校に配付</p> <p>12月 研究全体会</p> <p>1月 総合研究大会事前授業実施、指導資料の作成、発表リハーサル</p> <p>2月1日 総合研究発表会(指導資料配布、公開授業・研究発表・討議・講演)</p> <p>3月 研究紀要「大阪の理科」の発行、理科評価問題作成・各校に配付</p>				
6 見込まれる成果	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている<u>子どもの様々な力の育成</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載してください。</p> <p>○子ども ・主体的・協働的に問題解決していく力が向上する。 ・理科の学力が向上する。 ・理科における資質・能力が育成される。</p> <p>○教員 ・理科授業の改善のための実践的研究の成果を公開授業・討議会・研究発表会等の機会を設けて発信することにより、大阪市の小学校教員の理科教育に対する関心が高まるとともに、理科指導力が向上する。 ・教員向けの指導資料の作成と配布により、日々の授業実践の質が向上する。 ・評価方法の研究と情報発信により、日々の教育実践の質が向上する。 ・教員向けの各種研修会の実施により大阪市の小学校教員の理科教育に対する関心が高まり、理科に対する苦手意識が減少するとともに、資質が向上し、指導力が向上する。</p>				
7 成果の検証方法	<p>客観的な指標により、<u>必ず数値で示すことができる検証方法</u>を記載してください。</p> <p>○子ども ・会場校の学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目で、「とても思う」「少し思う」の値を90%以上にする。 ・研究授業を実践した学級の児童アンケートにおいて、「理科の学習が好き」と答える子どもの割合を90%以上にする。 ・会場校の学力経年調査において、3～6学年の理科の標準化得点を昨年度よりも1ポイント上げる。</p> <p>○教員 ・公開授業に参加した教員へのアンケート「本日の授業で、子どもが主体的な学びができていたと思いますか」「本日の授業で、子どもが協働的な学びができていたと思いますか」「本日の授業は、今後の理科の授業を行う上で、参考になったと思いますか」の項目で、「とても思う」「少し思う」の値を95%以上にする。 ・研究発表会に参加した教員へのアンケート「本日の研究発表は、今後の理科の授業を行う上で、参考になったと思いますか」の項目で、「とても思う」「少し思う」の値を95%以上にする。 ・教員向けの各種研修会に参加した教員へのアンケートで、肯定的な評価の割合を95%以上にする。</p>				
8 研究発表の日程・場所(予定)	<p>研究発表は報告書提出日(平成31年2月25日)までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所(予定)</p> <table border="1" data-bbox="330 1379 1050 1468"> <tr> <td>日 程</td><td>平成 31 年 2 月 1 日</td></tr> <tr> <td>場 所</td><td>滝川小学校</td></tr> </table> <p>○研究成果の共有方法:研究発表 および 代表校園HPでの共有は必須です。他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業 ・討議会 ・研究発表 ・研究冊子発行 ・公開授業指導案配付 ・代表校ホームページ 	日 程	平成 31 年 2 月 1 日	場 所	滝川小学校
日 程	平成 31 年 2 月 1 日				
場 所	滝川小学校				
9 代表校園長のコメント	<p>本研究は、本市小学校理科に関する児童の学力向上と教員の資質向上とを目指している。研究にあたっては、全国学力・学習状況調査やPISA調査等の結果を受け、子どもが自然の中から問題を見つけ自らの思考をはたらかせ、友達と協働しながら問題解決に主体的・積極的に取り組むことが重要課題ととらえている。</p> <p>特に着目しているのは「対話的な学び」である。自分の考えをしっかりと持ち、わかりやすく表現・発信し合い、学習集団の中で考えを深め合いながら学習を進めていくといった、主体的・協働的な学びの姿は、子どもたちがこれからの世の中を力強く生きぬくために、ぜひ身に着けてほしいことである。</p> <p>また、児童の学力向上のためには児童を指導する教員の資質向上が不可欠であるが、経験の浅い教員の増加や理科を苦手とする教員が多いことは大きな問題である。従って、授業の質向上のための具体的な手立てを組み込んだ授業を公開するとともに、実技研修等の各種研修会を企画・開催し、教員の理科指導力向上を目指そうとする本研究は、非常に有意義であると考える。</p> <p>ぜひとも、ご支援をいただきたいと思います。</p>				

※上記の内容をA4判2ページ(文字は10ポイント)※厳守で作成し、平成30年4月20日(金)までに
大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。